

【開催結果（概要）】

障害者の地域生活を考えるシンポジウム **障害者がずっと地域で暮らし続けるために**

○日 時：平成28年12月26日（月） 13：30～16：00

○会 場：群馬県社会福祉総合センター大ホール（前橋市新前橋町）

○来場者：165名（障害者本人、家族、施設職員、市町村職員等）

◆シンポジウム当日の流れ

1 開 会

2 あいさつ

群馬県健康福祉部障害政策課 課長 岡部 清

3 シンポジウム

第1部 講演

演題：「親なき後は親あるうちに～あんしんノートから成年後見制度まで～」

講師：認定特定非営利活動法人 よこはま成年後見 つばさ

理事 根岸 満恵氏

概要：よこはま成年後見 つばさの理事であり、重度知的障害のある息子を持つ母親でもある根岸氏から、「あんしんノート」作成の経緯やその活用方法、成年後見制度の必要性やその利用等について講演をいただいた。

第2部 パネルディスカッション

テーマ：「グループホームで暮らすという選択」

コーディネーター：小澤 温 氏

コメンテーター：根岸 満恵氏

パネリスト：4名（GH利用者、その家族、支援者）

・中津山 久弥氏

・中津山 達也氏

・鬼形 朋宏氏（ケアホームRUN・生活支援員）

・齋藤 陽一氏（前橋市障害者生活支援センター・相談支援専門員）

概要：パネリスト等の自己紹介後、スライドを投影してグループホームでの生活の様子を紹介。その後、グループホームで生活している方を中心に、グループホームでの様子やグループホームでの暮らしを考えたきっかけ等を伺い、本人や家族の思い、支援者から見た地域生活等について意見交換が行われた。

4 閉 会

これからのこと、一緒に考えてみませんか。



障害者の地域生活を考えるシンポジウム vol.3 ～障害者がずっと地域で暮らし続けるために～

高齢化社会を迎えた現在、障害のある人が安心して地域で暮らし続けるためには、これまで親や家族が担ってきた役割を徐々に地域の支援者に託していくことが必要です。

「親亡き後」を見据えて、どのように支援のバトンをつないでいくのか、また、親元からの自立を希望する人が自分らしい生活を実現するための選択肢の一つである「グループホームでの暮らし」について、講演及びパネルディスカッションを通して考えます。

開催日：平成28年12月26日（月）
時間：13時30分～16時00分（予定）
*13時より受付開始
会場：群馬県社会福祉総合センター 8階 大ホール
（前橋市新前橋町13-12）
定員：300名（入場無料）

プログラム

第1部：講演

「親なき後は親あるうちに
～あんしんノートから成年後見制度まで～」

講師 認定特定非営利活動法人 よこはま成年後見 つばさ
理事 根岸 満恵 氏



根岸 満恵（ねぎし みつえ）氏
プロフィール

第2部：パネルディスカッション

「グループホームで暮らすという選択（仮）」

- ・コーディネーター 小澤 温 氏（筑波大学 教授）
- ・コメンテーター 根岸 満恵 氏
- ・パネリスト 4名（予定）

*グループホームで生活されている方を中心に
ご家族・支援者それぞれの想いについて
お話しいただきます。

認定NPO法人 よこはま成年後見
つばさ 理事、社会福祉士・精神保健福祉士。

重度障がい者の母親で地域の仲間と三人会を作り、引継書「将来のためのあんしんノート」作成。

「知的障がい者が安心して地域で暮らすために」法人後見利用検討会、通称「真理さんプロジェクト」を主宰。3年間プロジェクトを実施し、本人による保佐開始申立の結果、現在受任担当中。

支援者と親の立場で、障がい者の親なき後問題に取り組んでいる。



群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

主催：群馬県 群馬県障害者自立支援協議会

お問い合わせ先：群馬県健康福祉部障害政策課支援調整係 電話：027-226-2636

「障害者の地域生活を考えるシンポジウム」に関するアンケート

【 集計結果 】



◆ 参加者数 165人

◆ 回答者数 113人 回答率 68.5%

◆ 回答者の属性

| ○性別 | 計 | 男性 | 女性 | 無回答 |
|-----|------|-------|-------|------|
| | 113 | 44 | 67 | 2 |
| | 100% | 38.9% | 59.3% | 1.8% |

| ○年齢 | 計 | 30歳未満 | 30代～40代 | 50代～60代 | 70代以上 | 無回答 |
|-----|------|-------|---------|---------|-------|------|
| | 113 | 6 | 38 | 55 | 13 | 1 |
| | 100% | 5.3% | 33.6% | 48.7% | 11.5% | 0.9% |

| ○職業等 | 計 | 障害者本人 | 障害者の家族 | 障害福祉サービス事業所職員 | 行政職員 | その他 | 無回答 |
|------|------|-------|--------|---------------|------|------|------|
| | 113 | 3 | 35 | 58 | 6 | 9 | 2 |
| | 100% | 2.7% | 31.0% | 51.3% | 5.3% | 8.0% | 1.8% |

1 シンポジウムの内容について

第1部 講演

演題:「親なき後は親あるうちに～あんしんノートから成年後見制度まで～」

| | | 計 | とても参考になった | 参考になった | どちらともいえない | あまり参考にならなかった | 参考にならなかった | 無回答 |
|-----|---------------|------|-----------|--------|-----------|--------------|-----------|------|
| 全体 | | 113 | 41 | 67 | 3 | 1 | 1 | 0 |
| | | 100% | 36.3% | 59.3% | 2.7% | 0.9% | 0.9% | 0.0% |
| 職業等 | 障害者本人 | 3 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 障害者の家族 | 35 | 17 | 17 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 障害福祉サービス事業所職員 | 58 | 16 | 39 | 1 | 1 | 1 | 0 |
| | 行政職員 | 6 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 9 | 5 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 無回答 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |

【主な意見等】

○障害者本人

- ・ 知的障害者のみでなく、身体障害者（聴覚、言語、視覚）でも大変参考にしたい。あんしんノートを作っておきたいと考えました。
- ・ 自分も高齢になったので、これからの生活について、いろいろと考えさせられました。参考にして、できることから実行していきたい。

○障害者の家族

- ・ あんしんノートを出来るだけ書いて、後の参考にしたい。
- ・ あんしんノートを書いてみたら、より良く息子の事を考えられるかも。書いてみたいと思います。
- ・ あんしんノート参考にして、早速、わかるところから書いてみたいと思います。
- ・ 親が若いうちからのあんしんノートの普及・活用を広めたいと思いました。
- ・ あんしんノートは障害のある子だけでなく、家族全員に使えそうな気がしました。あんしんノートの書き込みは障害がわかった時から始めた方がよさそう。
- ・ 家族の立場から、発表者の努力に頭が下がる。内容は少し難しく、言葉も耳慣れないものもあったが、このような準備が必要と認識。
- ・ 成年後見制度について具体的に話されたので参考になりました。本人用のファイルは作ってあるので「安心ノート」も使って「それ一冊ですべてわかるようなもの」に、より充実させたいと思います。
- ・ 資料が沢山用意されていてよいが、全部説明でなく、この点はこのところを重点にもらった方がよいと思います。

○障害福祉サービス事業所職員

- ・ あんしんノート、とても良いと思いました。この一冊があれば、一目でもわかるし、その人の背景も見えてくると思いました。
- ・ あんしんノートの有効活用について考えてみたいと思いました。ただ、親御さんが亡くなり、兄弟、姉妹の代になっている方にとっては大変な作業だと感じました。
- ・ 知的障害者の施設で生活支援員をしているので、ケース記録があんしんノートくらい詳細部分まで記入できていたら、すべての支援に役立つと思います。ぜひ参考にさせていただき、作成したいと思います。
- ・ 事業所の立場からだけでなく、親の立場から（視点）のお話もあり、とても聞いていて関心を持つことができました。今現在、担当している方も、まさにこの問題で悩まれています。今日のお話を参考にさせて頂き、担当の方、ご家族と話を進めていけたらと思います。ありがとうございました。
- ・ 自分の担当している方にもあんしんノートを進めたい。群馬県でも安心して地域生活が送れるような社会になってほしい。「お金がなくても権利を守る」が印象的だった。

○行政職員

- ・ あんしんノートは、相談システムを構築する上で、とても重要と考えます。
- ・ 「本人に関わる人（支援者）を1人でも多く」という視点は、本人の生活を支える上では大切だなと思いました。「親亡き後」という言葉にすると、おおごととと思ってしまいましたが、将来的な準備は、できることから、できるときに進めていくべきと思いました。

○その他

- ・ 非常に話が具体的で分かりやすかったです。支援者であると同時に、親の立場からの話を聞くことができ、直接的で参考になりました。
- ・ 現在高校3年生で、春から大学の教育学部の障害児教育専攻に通います。実際に自分が障害者の親や親族であるわけではないのですが、もしかしたら自分が後見人になる可能性もあると知ることができたことがまず良かったです。あんしんノートや複雑な福祉の仕組みのことがわかりやすく、よく理解できて良かったです。

第2部 パネルディスカッション

テーマ:「グループホームで暮らすという選択」

| | | 計 | とても参考になった | 参考になった | どちらともいえない | あまり参考にならなかった | 参考にならなかった | 無回答 |
|-----|---------------|------|-----------|--------|-----------|--------------|-----------|------|
| 全体 | | 113 | 28 | 65 | 14 | 1 | 1 | 4 |
| | | 100% | 24.8% | 57.5% | 12.4% | 0.9% | 0.9% | 3.5% |
| 職業等 | 障害者本人 | 3 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 障害者の家族 | 35 | 7 | 23 | 2 | 0 | 0 | 3 |
| | 障害福祉サービス事業所職員 | 58 | 13 | 34 | 9 | 1 | 1 | 0 |
| | 行政職員 | 6 | 2 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 9 | 5 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 無回答 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |

【主な意見等】

○障害者本人

- ・ 人それぞれの考え方はいろいろあり、複雑であると思いました。なかなか難しい問題と感じました。

○障害者の家族

- ・ グループホームで質の高い生活を送れている本人や保護者の意見を聞いて良かったです。とても幸せそうで安心しました。自分の子、男子33才もグループホームで幸せに生きて行ってほしいと思います。
娘はグループホームで生活をはじめて2年になります。以前は家に居て、病院に行っていました。母親とケンカになり、すぐ入院の繰り返しでした。グループホームに入り、母親との距離がちょうどいいなど、今は思います。
- ・ 経済的な面が具体的に説明がなく、不満でした。例えば、不足分はどのようにしているのか、支援を受けることが出来るのか。
- ・ 利用者の意見、何を望んでいるかを根気強く探す姿勢が必要だと感じさせられました。

○障害福祉サービス事業所職員

- ・ ご本人の暮らしの説明がわかりやすく、参考になりました。本人がプラスに感じている（支援が）様子がみえました。
- ・ ご本人がこれからの生活をどんな風に考えているのかが聞いてみたかった。
- ・ 本人の希望する生活を考えても、社会資源の少なさがあり、サービスに対応できなかつたりがある。
- ・ 地域で支えられる社会資源が増えると良い。生活の質を高められると良い。

○行政職員

- ・ 小澤先生のパネルディスカッションの進め方が明快で、とてもよかったです。実際の入所者さん、その家族の方の話を伺えたことは、有意義でした。

○その他

- ・ グループホームでの活動の様子が分かりやすかったです。様々な立場の方々によるディスカッションは様々な視点の意見があり、とても良かったです。
- ・ 実際のグループホームでの生活の様子をかいまみることができ、とても参考になりました。小規模な施設で、きめ細かなサービス提供がなされていて、好印象を持ちました。
- ・ 当事者ご本人、また親の立場でのご意見が参考になりました。いろいろな研修で当事者が意見を話す機会が増えれば良いと思います。

2 シンポジウムに参加しての、気づきや今後に活かしたいと思ったことなどについて

【主な意見等】

○障害者本人

- ・ 要約筆記を付けて頂き、内容がよくわかり、ありがとうございました。普通の会合では手話が付くが、要約筆記はなかなか付けて頂けないので…。

○障害者の家族

- ・ 親のエンディングノートと共に、本人のあんしんノートを書き込みたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 最近、子供の事をまとめるノートを作りたいと思っていたので、とても参考になりました。同じ思いの親たちに普及できたらと思います。後見人に関しては勉強したいと思います。
- ・ 色々なサービス・支援を相談していきたいと思います。本人がどのような生活ができるのか、したいのかを聞いていきたいと思います。たくさんの方々にかかわりを持ちたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 重度知的障害者の母親です。子どもも30代に入り、成年後見について真剣に考えようと思い、参加しました。本日会場に来られなかった仲間たちにも資料を見せて説明したいと思っています。よい企画にお礼申し上げます。ありがとうございました。
- ・ 少しずつでも関心を持って、このような事業に参加したいと思いました。

○障害福祉サービス事業所職員

- ・ あんしんノートがあることで、本人に関する情報が共有、伝わりやすくなると思った。また情報を共有することで本人の支援者が増え、より良い質の高い生活ができるのではと思った。
- ・ あんしんノートはわかる人が元気なうちに作成しておけば色々な場面で役立つと思いました。「成年後見は必要」と支援者は感じていても、高齢のご家族にはなかなか理解いただけないことが多いです。もっとこういった当事者からの話が聞ける機会があったら良いと思いました。
- ・ 親亡き後を考えにくいご家族がたくさんいます。親が頑張って自分達で子供をみている現状があり、福祉サービスを知らない、利用していない方もたくさんいます。相談員につながる方はラッキーですが、困っている事を言えない方達に対して行政は積極的に啓発活動をしてほしい。
- ・ パネルディスカッションでは、ご本人の貴重な情報、話を聞けた事は良かったと思います。家族の声も、一人でも多くの方が聞き、参考になる事を期待します。

○行政職員

- ・ ディスカッションの深まりが、不十分だったように思います。

○その他

- ・ 地域連携の必要性を強く感じました。
- ・ 障害者のみならず、要介護高齢者または一般住民が地域で暮らし続けるための仕組みづくりが必要です。多世代交流・多機能型福祉拠点という考えが、国から示されています。群馬県としても各制度枠を超えた仕組みを健康福祉部として検討してください。
- ・ 成年後見制度は、よく分からないので学校で勉強をしていきたくと思いました。あんしんノートを事前に作っておくと、両親が亡くなった時に使えることがわかりました。私の両親にあんしんノートを使用していきたくと思いました。成年後見制度は、任意後見と法定後見の2つ分けられることがわかりました。補助・保佐・後見に分けられることがわかりました。